

1班(地区社協ヒアリング)

○福祉推進委員の活動上の課題

- ・地区、地域ごとに選出の方法の違いや、人による意識の差がある。継続すれば活動内容も深まるが、1年で交替することも多く、地域のニーズを把握しきれない。
- ・自治会、民生児童委員、福祉推進委員がそれぞれの役割を果たしているが、活動が縦割りになっている面も見られる。

■ ☆福祉推進委員の役割・活動内容の周知（緩やかな見守りなど）

☆自治会・民生委員・福祉推進委員の連携強化（情報共有や顔を合わせる機会をつくる・増やす）

○地区の関係団体の組織率低下

- ・自治会の組織率低下（＝会員の減少）により自治会組織が疲弊している感がある。
- ・各種団体が自治会加入に関連していることが多く、自治会の組織率低下が他の団体（婦人会・老人クラブ・子ども会など）の組織率低下にも影響している。
- ・各種団体の活動が自治会員を対象とする場合が多く、自治会員の減少が対象者の減少につながっている。
- ・若い世代の活動に入っていくことで、既存の団体や活動を知ってもらい、協力し合える関係を作る。次世代の担い手づくりにもつながる。

■ ☆関係団体同士の連携・協力体制の一層の強化

○地域の社会資源としての社会福祉施設

- ・社会福祉施設として協力できることもあると思うが、地域住民の施設に対する先入観、施設利用に対する拒否感もある。
- ・地域の生活支援活動、ボランティア活動に協力している施設もある。
- ・施設見学などを通して、実情を知ってもらうことで関係づくりができれば、見守りなどを通じて把握した生活課題を抱える人が、適切なタイミングで施設（サービス）につながれるのではないかと。身近で相談できる窓口としての役割も担えると思う。

○地域活動の対象の拡大

- ・高齢者向けの活動が中心だが、子どもを対象とした取組みも充実させる必要がある。
- ・外国人労働者などが増えており、家庭を持って地域の一員として生活している人も多い。現状は外国人に対するアプローチは行えていない。地域で孤立しないように、何らかの関わりも考える必要がある。関係を築くことで、将来の活動に担い手にもなり得る。

2班(市民アンケート)

○地域に求められる役割

- ・介護など健康面の問題や、経済的な問題は、近所の人に相談しづらい。地域で対応することも難しい。
- ・地域で困っている人をサポートすることは必要だと思っているが、地域の活動(老人クラブの活動など)に参加するのは、比較的元気な人たち。困っている、弱っている人が参加している訳ではない。
- ・アンケート調査では若い人の回答が少ない。現状で差し迫った問題がないということか。
→「福祉」とは、困っている人のためのものか、困っている人を少なくすることか？
その中で、地域(住民)が担う役割とは？

■ ☆地域で暮らす人が困らないようにする役割

☆生活で困りごとのある人を、公的支援や専門的な支援につなぐ接点の役割

○若い世代を巻き込むためには

- ・イベント的な活動は参加を求めやすい。イベントに来たい人はいるが、運営に関わってくれる人はいない。
- ・若い人に参画してもらうためには、楽しさや面白さをアピールすることが大切。
- ・子どもが集まる行事には親世代が参加する。子どもが楽しんでいれば、親も関心を持つ。地区のイベント(夕涼み会)で、実施主体が地区社協・自治会であることをPRしたら、4世帯が自治会に加入してくれた。

■ ☆子ども・親世代が地域活動に参加する機会を増やす

☆地域活動に参加しやすい“楽しい入り口”を作る

☆地域の活動や団体のPR(行事の開催だけで終わらない)

○自治会加入率の低下

- ・困ったことがあれば行政に…という風潮が、自治会活動や地域の互助を阻害している要因であるとも考えられる。
- ・自治会に加入していない(身近につながりが無い)ことで、困ったときにどこに相談すれば良いか分からないということもあるのではないか。
- ・自治会に加入する際に、多額な金銭的負担を求められることが今でもある。加入のハードルを下げるなど、自治会側も考えるべきことがあるのではないか。
- ・アンケート調査では、自治会に加入しない理由として「特に理由はない」「自治会がどういふものか知らない」「加入する方法や連絡先がわからない」という回答も見られた。自治会に関するPRも必要。(行政が加入促進のPRをするにも限界がある)

3班(地区座談会)

○各種団体の加入率低下

- ・以前は自治会に加入するのが当たり前だったが、加入することによって担う役割への負担感や、地域活動へ参加することの拒否感を感じる人が増えたことで、加入率低下につながっている。
- ・新しい住宅(世帯)も増えているが、そこに対して自治会勧誘などのアプローチが届いていない場合もある。
- ・今後さらに自治会加入世帯が減少(半数を下回る)すれば、地域のことを住民が決めて行動する(住民自治)という認識が薄れることも考えられる。
- ・自治会組織率の低下が関係団体の組織率にも影響する。結果として、残った会員(役員)にかかる負担が増える。(メンバーの固定化・役割の集約化)
- ・活動の中心になっている人の多くは 70 代以上であるが、定年延長などの関係で地域の活動・行事に参加できる年齢が今後さらに上がる可能性もある。
 - 若い世代は仕事や子育てなどがあるため、地域活動への継続的な参加は難しいが、たまに参加するのならば可能。若い世代の参画や参加しやすい雰囲気づくりのためには、若い人の意見を聞く(尊重する)必要があるのではないか。
 - 中高生にアプローチして地域(自治会)活動に参加してもらってはどうか。

■ ☆自治会活動の周知(加入促進)、退会者の抑制

☆若い世代が参画しやすい地域活動のあり方(仕事・子育てと地域活動の両立)

○学校の統廃合による子どもとの接点の減少

- ・小中学校の統廃合により地区に学校がなくなると、行事などに参加してくれる子どもの数が減少し、地域で子どもと関わる機会も減少している。
 - ・居住地を選ぶ要因として学校の存在は大きい。学校が無くなると地区外へ転出する人も増える。
 - ・小学校は地区のシンボリックな存在であり、活動拠点であり、連携先でもある。地区に小学校が無くなることで、地域活動のあり方も変化することが予想される。
- ★子ども向けの活動(こども食堂など)をしたいという声は増えており、若い世代とどう関係づくりしていくかを考えていく必要がある。

○外国人との交流

- ・市内で他国の宗教施設や商店、料理店などが増加している。技能実習等の外国人労働者が増えている(福祉施設・農業など)。
- ・地域の中で外国人の存在が身近になってきている。良好な関係を築くことは必要だと思うが、話し合いの場や交流するきっかけがない。地域で受け入れていける環境づくりを進めていくことが重要。

4班(関係団体ヒアリング)

○会員の減少

(社会の変化)

- ・定年の延長や共働きの増加など、仕事をしている人が増えている。
- ・公的な制度やサービスが充実したことで、組織や団体に属する必要性が薄くなっている。

(組織・団体の課題)

- ・組織や団体に加入することのメリットをPRできればよいが、実際に参加や体験してみないと実感が湧きにくい。加入や参加を呼びかけても、活動内容を知らないで加入や参加につながらない。(参加してくれる人は継続してくれている)

→活動のPRが必要

○団体間の連携

- ・活動を充実させたいが、現状維持がやっとの状況になっている。単一の団体では活動の継続も難しくなりつつあることから、他団体と連携したいと考えている団体が多い。

→連携したいと思っても“誰と” “どのように” つながればよいか分からないことも課題。

→世代が違っても、対話を通じて相互に協力できる部分が見出せることもある。

- ・組織や団体同士がつながるきっかけは、人(個人)に属する部分も多い。人が変わってもつながり続けられる関係づくりが必要。
- ・施設では、コロナによる空白期間で今までのつながりが途切れてしまい、地域との間に距離ができた(現在も状況は変わらないが)。今後つながり直す必要も感じているが、人が変わって地域の誰が窓口なのか分からない。

■ ☆組織や団体同士をつなぐ(コーディネート)する役割

☆組織や団体、世代間がつながるきっかけづくり

(世代間の縦のつながりと団体等の横のつながり)

○ボランティア活動・地域活動の現状

- ・組織や団体での活動になると、新しいことに否定的な人もいる。事故などのリスクを心配し過ぎて、活動の停滞につながっている(リスクマネジメントは必要だが)。現状に留まっていけないという危機感を持つことが必要ではないか。
- ・ボランティア活動をしている人は、他の地域活動に関わることも多い。自発的に参加しやすい活動を作ることが、他の活動の担い手を作ることにもつながる。

■ ☆現状の課題に対応していくための意識づけ

☆参加しやすい入り口(メニュー)を増やす(広げる)